

# 被災地支援の取組

## 今、みんなのできること、あなたのできること

文部科学省では、これまで、保護者や民生・児童委員、学校、PTAなど、地域のなかの様々な人と人とのつながりにより、家庭教育を支援する取組を推進してきました。このような日頃からの取組があったことで地域の中に、お互いに協力して助け合う基盤ができ、緊急時にも、多くの人が協力して、いろいろな支援が行われています。

そのような、これまでの家庭教育支援の取組を活かし、文部科学省では、今回の東日本大震災による被災地への支援となるよう、ご要望に応じて以下のような取組を行います。

### ● 被災地の県・市町村が実施する取組等に対する支援

**リーダー研修などでの講師派遣** 県等で開催する研修へ講師やアドバイザーなどを派遣します。

**研究協議会の実施** 様々な地域の支援者の相互交流や取組方策の検討、実施等に役立つ研究協議会を開催します。

**情報の発信** 家庭教育支援に役立つ取組事例やデータ等を情報提供します。

その他、各地域で実施するお話会や相談支援などの取組を要望に応じて支援します。

## ～日常の生活に根ざした支援や心のケアの大切さ～

(兵庫教育大学学校教育学部大学院臨床心理学専攻教授 富永良喜)



平成23年3月11日、東北地方において、未曾有の大震災が起きました。

この想像をはるかに超える災害により、多くの人々が被災し、現在も心に大きな傷を抱えています。

阪神淡路大震災においても、小・中学校に在籍する心のケアが必要な児童生徒数が、減少に転じるまで、約10年の歳月を要しました。大きなストレスやトラウマを持つ子どもたちの心のケアは、長期的な支援が必要なのです。

また、「お話を聞きます」といった、個別訪問スタイルのアウトリーチだけでは、本当に心に寄り添うことはできません。日常の生活に根ざした支援のなかで、自然に思いが語られ、大震災に伴う様々な思いを閉じこめることなく、安心して表現できるような日常の生活の中でのサポートが必要となります。例えば、阪神淡路大震災の地域こころのケアセンターでは、茶話会・華道教室・カラオケ大会・リラクゼーションの会など様々な企画をし、生活に密着した支援を行いました。

今、被災地では、中・長期的な支援が必要な時期に入っています。これからは安心感・信頼感のある関係性の中で、様々な思いや気持ちを表現することが大切になってきます。被災地では、子育てサポーターや家庭教育支援チームの皆さんの傾聴活動や、子どもたちの遊び支援などは、「長期的かつ日常生活に根ざした支援」という面で、非常に有効であると思います。こういった活動が広がり、被災した皆さんが安心して子育て出来る環境づくりが進むことを期待しています。

## 宮城県子育てサポーターリーダー連絡会への有識者派遣

震災後、避難所をはじめ様々なところで支援をされてきた、子育てサポーターリーダーさん。そのネットワークの構築と、地域に根ざした持続的な家庭教育支援活動の振興を図るため、宮城県では「子育てサポーター連絡会」が開催されました。

子育てサポーターリーダーの皆様の今後の活動にお役立ていただけるよう、日常的な関わりの中で行う支援の大切さや、実践プログラム等について、体験型のワークも含めて、2人の有識者の先生方にご講義をいただきました。

**講義①**「地域の人々の関わりによる親子の遊びや学びの支援」

講師：松田 恵示(東京学芸大学教育学部教授)

**講義②**「被災地における保護者や子どもへの心のケア」

講師：冨永 良喜(兵庫教育大学大学院教授)



講義の様子

### 参加したみなさんの感想

- ・震災後の心のケアの大事さ、難しさを感じた。できることからサポートしていきたい。
- ・県の子育てサポーターとして、被災地に行ってサポートをしたい。
- ・私たちはこれからが出発点。今後の活動に生かし、地域に根ざしたサポートをしたい。
- ・講師の子どもの遊びへの支援や生活に根ざした心のケア等の重要性を聴き、何かできそう、やれそうと思った。
- ・個人では難しいかもしれないが、ネットワークを作ることで支援活動につなげていきたい。
- ・ネットワークを自分の地域だけでなく、管内のサポーター同士の子育て関係者同士のネットワークづくりを是非実現したい。



参加者による話し合い

## 和歌山県橋本市から東日本大震災の被災地へ手作りおもちゃが送られました

高野山の麓“橋本”から応援しています。



チーム名：橋本市家庭教育支援チーム  
「ヘスティア」

活動開始：平成20年6月

活動人数：27人

団体住所：橋本市教育委員会  
和歌山県橋本市東家1-1-1  
(TEL：0736-33-1111 内線1297)

このたびの震災が皆さんの生活や心に、そして子どもたちに、どんなにか大きいダメージを与えたかと思うと心が痛くてなりません。子どもたちや子育て家庭には息の長い心のこもった支援が必要とされることでしょう。子どもたちや子育て家庭を支援している皆さんに、遠く離れた私たちは、特別なことは何もできないけれど、日ごろ私たちが取り組んでいる活動の中から、何かお役に立つことがあればと思い、手作りおもちゃを作ってみました。

私たちが行っている子育て支援、家庭教育支援のひとつに、子育てサークルや幼稚園などでの「手作り講座」があります。これらのおもちゃは、その講座で作っているものです。材料は橋本市内高野口地区の地場産業であるパイル織物の工場から頂いてくる端切れ等を使っています。子どもたちに、できるだけ安全で長く楽しく遊んでもらえるように工夫を凝らして作ったオリジナルデザインの作品「いないいないばあ」と「ぼよぼよ」です。一人ひとりが東北の皆さんの心にエールを送るつもりで作りました。

私たちチームヘスティアは「かがやく笑顔をもとめて」という合言葉を胸に活動しています。東北で活動していらっしゃる支援者の皆さんをはじめ、被災されたすべての方々の笑顔に少しでもお役に立てればと願っています。